

桜

生 工

日本大学生産工学部校友会誌

2011

Vol.41

CONTENTS

ごあいさつ

生産工学部校友会長 高野和雄 —— 2

生産工学部学部長 松井 勇 —— 2

インタビュー「日本大学常務理事・

生産工学部校友会会長」 —— 3

日本大学ランキング —— 6

平成23年度代議員総会 —— 7

工科系校友会支部長会 —— 8

第6回日進会ゴルフコンペ —— 8

母校を訪ねる会 —— 8

校友会就職支援サイト —— 9

OB紹介 —— 10

野原産業株式会社 荻部弘之

大成建設株式会社 横地哲哉

学科ニュース —— 12

桜泉祭 —— 16



生産工学部校友会会長

高野 和雄

校友の皆様におかれましては、益々御健勝と御清栄の趣、心よりお慶び申し上げます。

3月11日に起こりました未曾有の大震災は大津波と原発の多大な被害をもたらしました。

東日本大震災で被災された校友の皆様と関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

私が、鬼丸三也前会長の後継者として生産工学部校友会会長に就任して3年。校友の皆様と生産工学部の先生方の日々の校友会活動への御協力と御尽力のお蔭で、無事一期目を終了致しました。本年1月に行われた会長推薦委員会で二期目の継続を推薦され、部会長及び常任幹事で構成される運営協議会において承認を得、6月に行われた代議員総会で再度生産工学部校友会会長に就任させていただくことを御報告申し上げます。

また、去る9月、日本大学評議員会で日本大学理事に推挙され、理事会で任命・承認を受け、過日就任致しましたことを、この紙面をお借りして御報告申し上げますと共に、日頃の御支援と御協力に深く感謝申し上げます。

同時に、前生産工学部長で日本大学常任監事、そして生産工学部校友会相談役の石井進先生におかれましては、此の度日本大学常務理事に就任されたことを御報告申し上げますと共に心よりお慶び申し上げます。

生産工学部は、来年創設60周年を迎えます。校友会としてはできるだけの支援を惜しまぬ所存であります。今後共、校友会活動を通して校友の皆様の多大な御協力を得て母校の発展に更に寄与したく微力ではありますが尽力致す所存ですので、倍旧の御指導、御鞭撻、御支援の程、心よりお願い申し上げます。



日本大学生産工学部長
生産工学部校友会名誉会長

松井 勇

校友の皆様におかれましては、益々御健勝で御活躍のこととお慶び申し上げます。また生産工学部における教育、研究、支援活動及び運営に対し、日頃より多大な御理解と御協力をいただき、ここに深く感謝申し上げます。

2011年3月11日、東北、北関東一帯を襲った東日本大震災は巨大地震、大津波、それに追い打ちをかけた原発事故のいわゆる「巨大複合災害」となり、それらの爪痕は人々の眼に癒し難い大きな悲しみと喪失感を刻んだと言えます。

被災された校友の皆様は勿論、在学生、入学生、そして父母の皆様にも心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。

9月に開催された日本大学評議員会で、前生産工学部長で日本大学常任監事の石井進先生が常務理事に、高野和雄生産工学部校友会会長が理事に推挙され、理事会において任命・承認され、共に就任されたことを御報告申し上げますと共に心よりお慶び申し上げます。

現在、大学を取り巻く環境は、東日本大震災の影響も併せ、長期化した経済不況と少子化の様相により極めて厳しい状況と言わざるを得ません。その様な中で、来年3月には「(仮)ものづくり工房棟」の竣工をみます。生産工学部らしさをより標榜するためにも、その活用と成果が期待されるところであります。また、来年は生産工学部創設60周年を迎えます。加えて、再来年には「(仮)新学科棟」の竣工をみます。

更なる生産工学部の発展のために、校友会・卒業生の皆様の倍旧の御支援、御協力を賜りたく心より宜しくお願い申し上げます。



石井進 常務理事（左）、高野和雄 校友会会長（右）

第13代の大塚吉兵衛新総長が9月1日に就任されると共に、役員改選を受けた初の理事会が9月10日開催され、理事長に田中英壽氏を再選任致しました。同時に、石井進常任監事（生産工学部校友会相談役・前生産工学部学部長）は理事長から推薦され、常務理事に就任されると共に、高野和雄生産工学部校友会会長は理事に就任されました。

早速、大澤慶吉生産工学部校友会広報委員長と川岸梅和生産工学部事務局副委員長が赴き、石井進日本大学常務理事と高野和雄日本大学理事に「これからの日本大学」と題して、抱負と具体的な施策についてインタビューさせていただきました。〈平成23年10月6日、日本大学本部常務理事室〉（以下、敬称略）

大澤・川岸：本日はお忙しい所、お時間をいただき有難うございました。石井先生、この度は常務理事御就任、おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

石井：有難うございます。昨年6月より日本大学常任監事を務め、此の度、田中英壽理事長より推薦され常務理事に就任致しました。

大澤・川岸：常務理事としての分担はどのよ

うな内容ですか。

石井：分担としては、大学院含む法務研究科及び130周年記念募金です。

大澤・川岸：高野会長、此の度は理事御就任おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

高野：有難うございます。石井先生を初め、生産工学部校友会の皆様の御支援の賜物と心より感謝申し上げます。

大澤・川岸：理事会後に開催された臨時評議員会で田中理事長は「盤石な財政基盤の上に日本一の教育力のある大学を構築したい」と強く訴えられました。

石井：その通りです。この3年間進めてきた赤字体質改善を更に推進することが重要課題だと認識しております。また、盤石な財政基盤が確立されてこそ大学院を含め健全な教育力が培われ、更に充実すると考えています。

大澤・川岸：同時に田中理事長は「平成31年の創立130周年を節目として記念募金を実施します。これを重要な施策と位置付けて担当常務理事を任命しました。」と述べられました。石井先生がその任に当たると言うことですね。

石井：身の引き締まる思いであります。教職員、学生、父母、校友、企業などが一体となって日大力を結集する基盤となる事業と考え、重要な施策と位置付けております。130周年に向けて、精励・努力致しますので、更なる御支援、御協力をお願い申し上げます。

高野：校友、企業に関連して、近々、桜門社長会が発足すると聞いております。

大澤・川岸：130周年記念事業に向けて大きなパワーになりますね。

石井：その通りです。御存知の通り、帝国データバンクの調査によると日本大学出身の社

長数は1位で、2位の慶応大学出身者の倍近くの数があります。

高野：以前「PRESIDENT」に、ベンチャー企業の社長や女性社長、会社役員に日本大学卒業生が多いことを示すデータが取り上げられていましたね。

石井：その通りです。とりわけ、女性社長では日本大学がトップとなっていますし、企業社会の最前線で数多くの校友達が活躍しています。

大澤・川岸：とても嬉しいことですし、誇りに感じます。

石井・高野：生産工学部は勿論、日本大学法人全体を考えながら、記念すべき130周年を目指して「これから」を築いていきたいと強く思っております。

大澤・川岸：3月11日に起った東日本大震災の影響で社会全体で元気が無くなったように思えるのですが……。

石井：東日本大震災のことは後で触れますが、大学や校友にとっては、学術の振興は勿論、スポーツの振興も皆が元気になるためには重要と考えています。駅伝を含めた陸上、相撲、野球、ゴルフ、水泳等々、優れた人材が本学には多くいます。

高野：特に、箱根駅伝は「来年こそは」と思っております。来たる10月15日の土曜日に、第88回箱根駅伝（正式名称は東京箱根間往復大学駅伝競走）の予選会が、陸上自衛隊立川駐屯地から立川市街地そして国営昭和記念公園の20kmで行われます。

大澤・川岸：今年はシード権を取れず、残念な結果でしたね。

高野：応援・支援に関する校友会の責任者として、本当に残念ですが、選手は皆一生懸命頑張ってくれています。予選会は各校上位

10名の合計タイムで、先ず上位6校が選ばれ、合計9校が来年1月2日と3日の箱根駅伝に出場できます。

石井：高野さんは今回も責任者として、予選会からいろいろと御尽力下さっています。

大澤・川岸：予選会は勿論、お正月の風物詩とも言えるべき箱根駅伝で良い結果が出れば、日大人にとって元気になりますね。

高野：全国の校友がテレビでも注目しています。乞う、御期待です。（笑）

大澤・川岸：先程触れました3.11東日本大震災についてお話しただけででしょうか。

石井・高野：先ず、被災され、大きな被害を受けた校友の皆様、そして在学・在校生、入学生、更には父母の皆様に、心より御悔みと、御見舞いを申し上げます。

大澤・川岸：日本に於ける観測史上最大の規模、マグニチュード9.0を記録し、震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及びました。

石井：それに加えて、場所によっては波高10m以上、最大遡上高40.5mにも上る大津波が発生し、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらしたのは周知の通りです。



石井 進 常務理事



高野 和雄 校友会会長

高野：それに、亡くなられた方が約 1 万 6000 人、未だに行方不明の方々が約 4000 人に上ると報じられております。

大澤・川岸：漁港や漁船の被害も甚大だったように思います。

高野：漁港は 300 ヶ所以上、漁船は 2 万 2000 隻以上の被害と聞いております。

石井：政府は震災による被害総額を 16 兆円から 25 兆円と試算しています。

大澤・川岸：巨大地震、大津波、液状化現象、地盤沈下、ダムの決壊、そして大量の放射性物質の放出を伴う重大な原発事故を併せた「巨大複合災害」へと被害が拡大しました。

石井：想定外だと言う声も聞きますが、災害を被った被災者への救済のあり方、障害者や高齢者そして子供達と言ういわゆる社会的弱者と言われる人々、復興の進め方、全てが生身の人間を取り巻く現実となります。

大澤・川岸：学生部長、学生担当を歴任されてきた先生ならではの視点「学生ありき、人ありき」そのものですね。

石井：「モノ、カネ、セイド」は手段です。「ヒト、クラシ、イノチ」をベースに置いて手段を考えるべきだと思います。

高野：この事は、これからの大学や学部の運営にも通じる重要な視座になると思います。

石井：その通りです。大学には「教育力」「研究力」「就職力」「経営（革新）力」「財務力」の 5 つの力が必要不可欠です。この 5 つの力から相乗効果を紡ぎ出し、「学生を大切に大学づくり」「明るい大学づくり」「開かれた大学づくり」そして「魅力ある大学づくり」を行うことが重要です。

大澤・川岸：先生は学生の目線に立った大学教育の重要性を常々お話しされていました。

石井：現代の若者達は世相を反映して、物的、精神的にも不安定な状態にあると言われていいます。そこで、学生の目線で学生一人ひとりと向き合い、対話を基本としたきめ細かな教育・研究環境を実現し、大学全体を視座に置いた種々の改革を教職員一体となって適切に行うことが重要だと考えています。

高野：安心して有意義な学生生活が送れる環境が今以上に整えば、学生本人は勿論、父母も安心です。より一層、実現に向けて石井先生と共に尽力致します。

大澤・川岸：本日はお忙しい中、貴重で有意義なお話を有難うございました。



左から、高野和雄 校友会会長、石井進 常務理事、川岸梅和 校友会事務局副委員長、大澤慶吉 校友会広報委員長

校友会女子入学試験

■出願資格：次の①、②および③の要件を満たす者。

①大学入学資格を有し、本学への入学を第一希望とする者で、次の（ア）～（オ）のいずれかに該当する校友の子（2親等内直系血族：受験者本人の祖父母、父母、兄弟、姉妹）である者。

（ア）以下に示す、学校法人日本大学寄附行為施行規則第8条に規定する「学校法人日本大学が設置する学校」を卒業または修了した者。

学校法人日本大学が設置する学校：●日本法律学校 ●高等工学校及び工業専門学校 ●東洋歯科医学校及び徳科医学校 ●東京獣医学校 ●専門学校令による専門学校、専門部、高等師範部、高等専攻科及び短期専修科 ●東京高等獣医学校及び東京獣医畜産専門学校 ●専門学校令による大学 ●大学令による大学及び予科、大学院及び専攻科 ●学校教育法（新学制）による大学、大学院及び短期大学

（イ）日本大学寄附行為施行規則第9条に定める推薦校友。

（ウ）学校法人日本大学が設置する学校に勤務を有する専任教職員または専任教職員であった者。

（エ）学校法人日本大学の役員または役員であった者。

（オ）学校法人日本大学の特別附属・準付属校を設置する法人に勤務を有する専任教職員または専任教職員であった者。ただし、特別附属・準付属校を設置する法人は、平成22年4月1日現在のものとする。

②生産工学部への入学を第一希望とする者。

③合格した場合、本学部に入学することを確約できる者。

生産工学部は経営のわかる技術者を養成します。

資料1 自動車工学・交通機械をリードする大学・学部

大学	学部 学科 研究科 専攻
1 東京大学	工学部 産業機械工学科 工学部研究科 産業機械工学専攻
2 東京農工大学	工学部 機械システム工学科 工学部研究科 機械システム専攻
3 日本大学	生産工学部 機械工学科 生産工学研究科 機械工学専攻

※古くから自動車の実験的研究に強い。大型から二輪まで、車両の運動解析と、ドライビングシミュレータを用いたマンマシン系の特性解析が活発。
[学問最前線2006] (河合塾編・著)

資料2 平成21年度技術士一次及び第二次試験大学別合格者

大学	技術士一次試験(計)	技術士二次試験(計)
1 日本大学	499	169
2 早稲田大学	243	131
3 東京工業大学	180	71

注) 第一次試験は、大学卒、大学院卒及び在学者の合計
注) 第二次試験は、大学卒、大学院卒者の合計
文部科学省(2010年1月)

資料3 出身大学別社長数

大学	人
1 日本大学	25975
2 慶応義塾大学	13636
3 早稲田大学	13023

※帝国データバンク調べ(2009年12月現在)

資料4 女性社長の出身大学

大学	人
1 日本大学	237
2 青山学院大学	226
3 日本女子大学	213

※「PRESIDENT」
2006 10.16号
(プレジデント社刊)

資料5 ベンチャー企業社長の出身大学

大学	人
1 慶応義塾大学	73
2 日本大学	56
3 早稲田大学	44

※「PRESIDENT」
2006 10.16号
(プレジデント社刊)

資料6 大学別 都道府県庁土木管理職者数(公務員)

大学	課長	土木部長・次長・技監	計
1 日本大学	57	16	73
2 北海道大学	25	13	38
3 京都大学	24	12	36

※2001年版 地方庁土木技術者名簿
(政経出版社)より

資料7 就職支援 就職支援部門の職員

大学	人
1 日本大学	57
2 東海大学	27
3 立命館大学	21

※大学ランキング2007(朝日新聞社刊)

資料8 就職支援 就職担当教員

大学	人
1 日本大学	191
2 近畿大学	99
3 金沢工業大学	61

※大学ランキング2007(朝日新聞社刊)

資料9 インターンシップ 参加学生数

大学	人
1 日本大学	1315
2 立命館大学	820
3 北里大学	787

※大学ランキング2007(朝日新聞社刊)

資料10 特許取得 特許公開件数(1994~2006年)

大学	人
1 日本大学	494
2 東海大学	461
3 慶応義塾大学	407

※大学ランキング2007(朝日新聞社刊)

日本大学としての総合力

就職支援の面では、全学部を繋ぐ「NU就職ナビ」が利用でき、企業、求人、OB情報、過去の活動記録など日本大学だからこそできる、大きなアドバンテージとなっています。実際の就職支援では、行事やシステムはもちろんですが、身近にどれだけ相談にのり、アドバイスをしてもらえる体制があるかが最も大切な要素です。生産工学部では各教員が企業・校友とのパイプを持ち、学生の相談に個別に応じ、研究室の先輩達も日常の触れ合いの中で、就職活動の経験を伝えていく環境があります。

平成23年度 生産工学部校友会代議員総会

3年度日本大学生産
代議員總會懇親会



ご挨拶される 田中英壽理事長



代議員總會

収支報告 平成22年度

經常收支計算書

自平成22年4月1日 至平成23年3月31日

1. 税金計算の部

(▽: 減額/単位:円)

収入の部		平成22年度 予算	平成22年度 決算	差	備 考
大 目 録	小 目 録				
資産運用収入	貸付金運用収入	(50,000)	(72,206)	(22,206)	基本基金
		50,000	72,206	22,206	学費等×10,000×0.6
入金金収入	入金金収入	(40,000)	(42,689)	2,689	学費貸付金(1,135名)
		40,000	42,689	2,689	
金買取収入	金買取収入	(50,000)	(309,000)	(199,000)	正金買取り付(10名)
		50,000	309,000	199,000	現金買取り
雑収入	雑収入	(1,000,000)	(1,043,069)	(43,069)	雑金、会費等
		10,000	10,069	93	
		990,000	1,033,000	(43,000)	
前期繰越収支差額	前期繰越収支差額	(33,450,859)	(33,460,859)	0	
		33,450,859	33,460,859	0	
収入合計		75,000,859	77,703,126	2,702,267	

支出の種

[illegible]

生産工学部校友会の代議員総会が6月18日（土）市川グランドホテルで行われました。総会は160名の校友が出席し開会、すべての議案が承認されました。

懇親会では田中英壽理事長をはじめ多数のご来賓を迎え和やかな会になりました。

事業報告 平成22年度

会員の状況（平成23年3月31日現在） 正会員73,714名 学生会員6,869名

●應 變 關 係

年月日	内 容
22. 4. 3	平成22年度入学生に入学記念品を贈る
22. 5. 30	会計監査
22. 6. 26	平成22年度役員総会
22. 6. 28	工研会4学区区役者会連合会
22. 10. 23	「桜の会」第40号発行
22. 10. 30	第2回風力発電コンベンツWMO2010へ参加金を支拂
22. 11. 1	松前町、キタノタ活動へ援助金を支拂
22. 11. 3	「母校を語る会」へ協賛
22. 11. 12	生産工研会、生産美芝、漁業組合連会へ協賛
22. 12. 31	富山県知事修任祝儀
22. 1. 4	北見工研会、キヤンパスアイデアコンテストへ援助金を支拂
22. 3. 4	新年度職員説明会
22. 3. 25	キヤンパスカレンダー発行
22. 3. 25	平成22年度卒会誌（14号）に校友会費を支拂

● 會議關係

年月日	会 議 名	内 容
22. 4. 25	運営協議会	職員協議会、総会について
22. 4. 27	総代会委員会	22年度計画案について
22. 4. 26	監査委員会	22年度決算報告のため
22. 4. 27	物産委員会	総務改正案
22. 5. 12	総代会委員会	18年度決算報告、22年度予算案
22. 5. 13	顧問協議会	学生会会長の歓迎訪問
22. 5. 20	運営協議会	18年度決算報告、22年度予算案、総会について
22. 5. 20	幹事会	18年度決算報告、22年度予算案
22. 5. 30	監査委員会	総会の決断部分について
22. 6. 10	広報・企業委員会	総務改正案
22. 6. 9	代議院議会	22年度決算報告・事業報告、22年予算案、規約改正
22. 6. 9	名誉委員会	名誉制度、名誉管理システムについて
22. 9. 16	運営協議会	正会員の数減、OJ改題支援システムについて
22. 9. 12	監査委員会	上平町の口直しについて
22. 11. 21	幹事会	職員見直しについて
22. 11. 16	運営協議会	校友会副会長について
22. 1. 22	運営協議会	新年会
22. 2. 17	運営委員会	会役、本部運営委員の推薦
22. 2. 17	幹事会	総代会議員の選出
22. 3. 1	新幹線建設委員会	新幹線全盛について
22. 3. 29	ボランティア委員会	名簿整理、義援金支援について
22. 3. 29	運営協議会	名簿の整理、東日本大震災の支援について

● 對外關係

[illegible]

工科系四学部

第14回日本大学工科系校友会支部長会が平成23年8月27日(土)日本大学工学部(70号館)で開催されました。北は北海道南は九州の各支部長、4学部校友会幹事89人が出席し各支部の現状報告をしました。懇親会は工学部62号館(50周年記念館)カフェテリアに移りご来賓に出村克宣工学部長、日秋俊彦生産工学部次長(学部長代理)、草間貞葉学部長、三ツ井直紀工学部事務局長、齋藤直樹理工学部事務局長をお迎えし、楽しい祝宴となりました。

来年は生産工学部校友会が当番校になります。



第14回工科系校友会支部総会

第6回日進会(教職員・校友会合同)ゴルフコンペ

平成23年10月4日(火)スカイウェイカントリークラブで生産工学部教職員と校友会幹事で合同ゴルフコンペを開催しました(各個人払い)。競技方法は18ホール新ペリア方式(同ネットは年長者上位)で行われ、優勝は朝倉勉さん(MA部会)、準優勝は山下至さん(建築部会)、3位は杉原隆圭さん(MA部会)でした。団体戦では校友会チームが優勝し祝宴はたいへん和やかな会になりました。次回幹事はマネジメント部会です。



第6回日進会(教職員・校友会合同)ゴルフコンペ

母校を訪ねる会

生産工学部では毎年、桜泉祭(旧泉祭)の時期[今年度は11月2日(水)～11月4日(金)]に「母校を訪ねる会」を開催し、皆様をご招待申し上げております。

今年度は卒業51年(昭和36年卒業)、卒業41年(昭和46年卒業)、31年(昭和56年卒業)、21年(平成3年卒業)及び11年(平成13年卒業)を経た皆様を対象に、下記のように第23回「母校を訪ねる会」を催したく存じます。

なにかとご多端の折とは存じますが、是非御家族共々ご来場賜り、在学当時の先生方を交えた教職員との懇談やお互いの旧交を温めるとともに、後輩の主催する桜泉祭を見学され、ご指導くだされば有り難く存じます。

尚、ご招待申し上げる卒業生以外の皆様でもご都合がよろしければ、お互いお誘い合わせの上、お気軽にご来校くださることを心よりお待ちしております。

○日時 平成23年11月3日(木曜日)

受付: 14時00分～15時50分

1号館1階正面入口

懇親会: 16時00分～17時30分

1号館3階大会議室

学内見学: 随時一桜泉祭、研究室等を見学、訪問してください。

○場所 日本大学生産工学部津田沼校舎

○会費 無料

○連絡先 校友会事務局 047(476)1140



高野和雄生産工学部校友会会長(平成22年度)



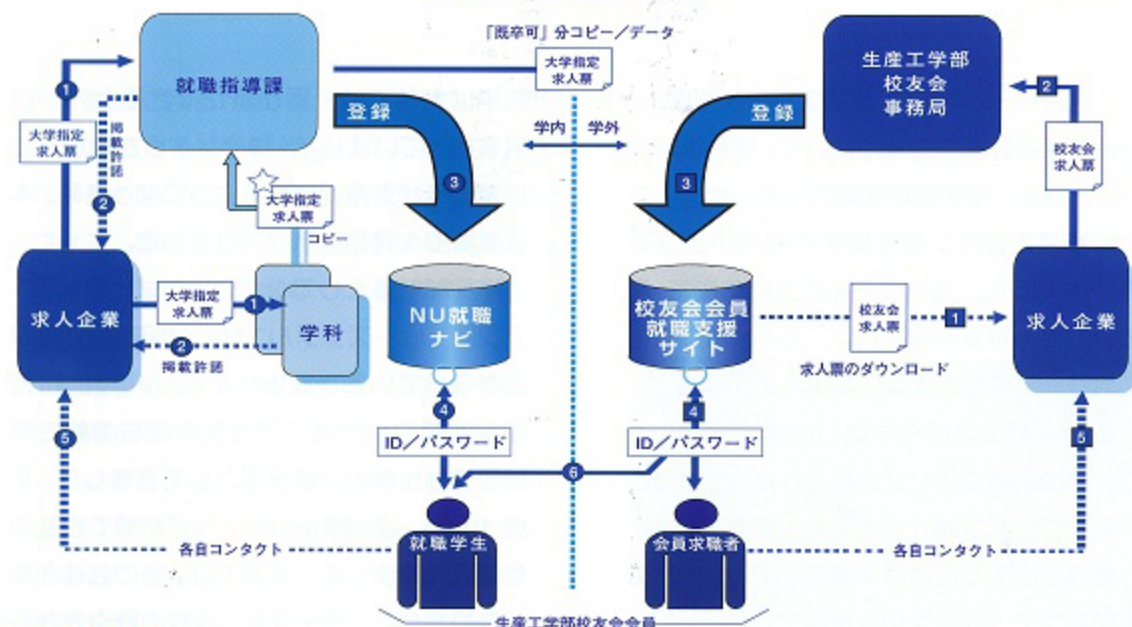
懇親会会場(平成22年度)

- ◆日本大学理工系3学部校友会会員就職支援サイトがスタートします。
卒業生は全員会員です！求職・求人にご活用下さい！！

日本大学理工系3学部校友会会員就職支援サイト概要

日本大学生産工学部校友会
会員就職支援サイト

2009年7月
企画委員会



【I】前提条件

- 1) 本サイトにアクセスできる者は日本大学理工系3学部校友会会員（学生・卒業生）に限ります。
 - 2) 本サイトに掲載される求人情報は3ヶ月で自動消去されます。（注1）
 - 3) 本サイトはあくまでも求人情報を公開する場であり、本校友会は求人企業との仲介を一切行いません。（職安法により）
 - 4) 本サイトの求人情報掲載料は無料です。
- 注1) 就職指導課経由で掲載された既卒者用の求人情報は年度単位で消去されます。

【II】校友会に届く求人情報照会の流れ（上図の□枠で示す）

- 1) 本サイトにアクセスして求人票をダウンロードします。
- 2) 求人票に必要事項を記載して、生産工学部校友会事務局へ郵送またはFAXします。
- 3) 事務局では求人票をスキャンしてデータ化の後、検索用インデックスを付加して登録します。
- 4) 生産工学部校友会会員は事務局からID/パスワードの交付を受けて本サイトにアクセスします。
- 5) 生産工学部校友会会員は、必要とする求人情報があれば、求人企業に対し独自にコンタクトを取ります。

【III】大学側に届く求人情報照会の流れ（上図の○枠で示す）

- ① 求人企業から求人票が就職指導課または各学科に届きます。
- ② 既卒者用の求人については就職支援サイトへの掲載可否を伺います。
- ③ 就職指導課は求人情報をNU就職ナビ（全日大共通学内のみ）に登録します。
就職支援サイトに掲載を許可された既卒者用の求人情報は校友会事務局にデータが渡り、本就職支援サイトにも登録されます。
- ④ 求職学生はNU就職ナビおよび本就職支援サイト（パスワード申請が必要）の両方を閲覧できます。
- ⑤ 求職学生は、求める求人情報があれば、求人企業に対し独自にコンタクトを取ります。

【IV】就職支援サイトのセキュリティ

- 1) 新規に本就職支援サイトを利用する場合は登録フォームに必要事項を入力して送信します。
- 2) 送信された情報は校友会事務局にメールで送られます。
- 3) 校友会事務局では校友会会員データベースを検索して存在を確認します。
- 4) 生産工学部校友会会員であることが確認された場合は、ID/パスワードを申請者に知らせます。

建築工学科 昭和52年卒業（神谷研究室）

野原産業株式会社 執行役員 荻部弘之

「母校を卒業し35年目となりました」

私は昭和52年3月、建築工学科を卒業し、建設商社の野原産業株式会社において、業務管理並びに、安全・技術管理を担当しています。会社の業務内容は、建設関連諸資材の全国販売・輸入販売、多岐に渡る構造物の施工、周辺分野での事業展開を行い、より付加価値の高いサービスをお客様に提供しています。

私が生産工学科を卒業した年はオイルショックの影響があり就職難でした。ゼネコンの東急プレハブ株式会社（社名変更：東急工建株式会社）へ就職が決まったのは卒業直前でした。大型現場受注で10名採用は幸運でした。

神谷先生と共に当時助手だった川岸先生に意匠設計を学んだ私は設計希望でしたが、同期全員が現場へ配属されました。現場では父親と同年齢の出稼ぎ職人さんたちへ、作業指示をすることになり、方言も分からず苦労しました。しかし、新入社員だった私も次の現場では、現場監督の仕事を任せられ、30歳代

前半は会社では一番仕事ができると内心自信を持っていました。嫌でしょうがなかった現場勤務が天職と感じるようになった時、本社購買部へ異動指示がありました。

購買部部長として心がけたのは「フェア・アンド・リーズナブル（常に公明正大で道理にかなっているかを重視する）」です。日経産業新聞のパイオニア社長の座右の銘に感銘を受け仕事の判断基準としてきました。平成11年、通勤電車の中、日経新聞で会社の危機を知りました。社員500名の会社がなくなりました。そんな時、複数の取引先から仕事の紹介を頂き、縁があり野原産業株式会社へ入社して13年目です。

現場、購買部の経験が全て今の仕事に生きています。何が自分に向いていて、やりがいがあるか悩むのではなく、前向きに取り組むことにより、その仕事が自分の天職になると学生の皆さんにアドバイスをします。



社内研修講師「工事管理研修」



社内研修講師「工事管理研修」

建築工学科 平成8年卒業・平成10年大学院修了（川岸研究室）

大成建設株式会社 設計本部建築グループ シニア・アーキテクト 横地哲哉

「思い出として残る仕事」

「地図に残る仕事。」というキャッチコピーで知られる総合建設会社に入社して13年。その間に個人住宅、集合住宅、店舗、オフィス、宿泊施設、宗教施設と様々な用途の設計を担当し、ここ数年では主に学校建築を専門に設計を行っています。

学校建築の設計の特徴的なことは、子供たちが限られた数年間だけを過ごす建物であることから、思い出のシーンの「背景（＝建築）」として如何にあるべきか、をかたちにするとところにあると考えています。なので、そこでのフィールドは「地図」ではなく「子供たちのところ」ですね。

近年、いくつかの賞を受賞させていただいた開成学園那古宿舎では2階部分を木造とし外壁に杉板を張った建物としています。自然に溶け込ませるだけでなく、散えて朽ちうる素材を使うことで、経年変化とともに子供たちと一緒に年を重ねていくことが出来る建物にしています。また、空調機を一切使わずに自然通風のみとした必ずしも快適とはいえない建物にしたことで、都会の子供たちにとって印象深い思い出が残ったことと思います。



「開成学園那古宿舎」

- ・第8回 芦原義信賞 奨励賞（主催：社団法人 日本建築美術工芸協会、2009年）
- ・第15回 千葉県建築文化賞（主催：千葉県、2009年）



機械工学科

【人事】4月に仲岡大助手が病気で亡くされました。心よりご冥福をお祈りいたします。9月に安藤努准教授と沖田浩平准教授のお二方が機械工学科に着任されました。8月に、昨年度より約1年間英国ノッティンガム大学に留学されていた栗谷川幸代専任講師が帰国しました。代わって7月に網島均教授が英国ラフバラ大学に3ヶ月の予定で留学されました。

【トピックス】○昨年から機械工学科の特色づくりの一環として始まったパイロットスクールプログラムが、今年も8、9月の夏休みを使って、米国オレゴン州ヒルズボロ空港で開催されました。自動車と同じように、飛行機も自分で操縦できる人が設計や整備を行うべきだと考えて、将来航空業界の技術者になりたいという夢を持っている学生に参加を勧めています。米国で約2か月生活するので、国際的なコミュニケーション能力が養われることも狙いの一つです。昨年は6名、今年は3名（内2名が新規）の学生が参加しました。2年間で7名の学生が自家用パイロット免許を取得することができました。今年は100%の合格率でした。また、昨年プログラムに参加した学生の一人が、大手航空会社に技術者として内定を受けました。



免許取得直後にインストラクタと握手する学生



留学中の栗谷川幸代専任講師

○栗谷川幸代専任講師が平成22年8月2日から平成23年8月1日まで英国のノッティンガム大学に海外派遣研究員として出張しました。派遣先では、「運輸支援システム評価のための運転者の状態計測および状態推定に関する研究」を実施しました。その成果は、本年度の日本大学生産工学部第44回学術講演会にて発表されます。

電気電子工学科

【学生数】学部839名 大学院（修士）43名 大学院（博士）1名

【トピックス】本学科は、2010年度にJABEE（日本技術者認定機構）の審査を受審することを2005年度に決定し、クリエイティブエンジニアリングコース（旧電気電子コース）を対象プログラムとして教育の改革を進めて参りましたが、この度、日本技術者教育認定機構により、平成23年5月16日付をもって、日本技術者教育認定基準に適合していると認定されました。これにより、当プログラムはワシントンアコードに基づき、世界標準に準拠した技術者教育のレベルを有することを保証されたこととなります。○当学科ではエネルギーシステムコース（旧電気エネルギーコース）とeコミュニケーションコース（旧電子情報通信コース）もありますが、これらの2コースも同時にJABEEの水準で改革を進めて参りましたが、この2コースも実質的にはJABEEの水準に達するレベルにあるものと確信しております。今後、益々教育が充



JABEE認定証



JABEE集合

実し優秀な卒業生を輩出し社会の期待に応えて参ります。○なお、今回の受審に先行して本学部土木工学科と応用分子化学科も同時に受審し、合格しております。また、数理工学工学科はJABEEに認定されて4年になります。本学部には9つの学科がありますが、そのうち4学科が認定コースを擁することになりました。合わせてご報告致します。

土木工学科

【学生数】学部828名 大学院（修士）31名 大学院（博士）2名

【人事】工藤勝輝教授が主任に選任され、秋葉正一教授が専攻主任に再任されました。また、学部運営では落合実教授が学生担当に任命されています。平成23年3月に渋谷望助手が退職され、9月に遠藤茂勝教授が、10月に藤井寿生教授が定年のため退職されました。永年にわたり本学科の発展に貢献いただき、誠に有難うございました。これからもご健康に留意され、引き続き後進への指導を賜りますようお願いいたします。そして、本年度4月から渡部正准教授、佐藤弘史助教、正木留里助手の3名が着任され、伊藤義也教授、小田晃教授、朝香智仁助教の3名が昇格されました。

【トピックス】春の恒例となっています1年生のオリエンテーションは、震災のため本年度は9月に延期となりました。9月13、14日に1泊2日の行程で川治ダムや五十里ダム、日光東照宮などを見学し、同日実施した3年生生産実習の現場研修とともに鬼怒川温泉に宿泊して先輩後輩、校友との親睦を深めました。この度の現場研修に際しても各方面の校友の皆様にご協力をいただき、日光砂防や湯西川ダムなどの現場見学では学生が土木の現場を肌で感じる貴重な機会を得ることができました。



3年生生産実習現場見学（湯西川ダム）

土木業界の第一線でご活躍される校友の皆様と接することで、学生は大変良い刺激を受け、自身の将来像を具体的に描いています。今後も生産実習や就職活動などを通じ、学生のキャリア支援にご協力を賜りたくお願いいたします。



1年生オリエンテーション（全体集合）

建築工学科

【学生数】学部946名、大学院（修士66名、博士3名）

【人事】川島晃・塩川博義・師橋憲貴・湯浅昇の各先生が教授に、北野幸樹先生が准教授に昇格された。

新規採用教員として、渡邊康教授・篠崎健一准教授・藤本利昭准教授・永井香織准教授が着任された。

【学科ホームページ】建築工学科ホームページが大幅にリニューアルされ、学生・教員・卒業生を結ぶメディアを目指して情報発信することとなった。（写真はトップページに姿を現した全教員） <http://www.arch.cit.nihon-u.ac.jp/>

【トピックス】学科内に有志で研究会が開催されている。かつては若手教員の研究会があったが、現在では「居住空間デザイン講師室」として非常勤の先生を交えた研究会があり、昨年「集って住もう」（彰国社）を成果物として出版した。これに加えて本年9月から「建物解剖学研究会」が発足した。全教員が参加し、主査として松井勇学部長が指導に当たられている。研究成果の出版を目標にしている。



応用分子化学科

【学生数】882名、大学院（修士79名（博士）6名）

【人事】平成23年度の学科主任は辻智也教授、専攻主任は山田和典教授が任命されました。今年度、新任の教員として吉宗一晃助教（生化学）が着任されて神野・小森谷・吉宗研究室として学生の教育研究指導に活躍されています。藤井孝宜准教授（有機化学）が教授に昇格されました。これにより平成23年度の教員構成は教授8名、研究所教授2名、准教授5名、専任講師2名、助教5名、助手1名となり、研究室は環境安全工学科兼任教員の研究室もあわせると16研究室体制となっています。また、応用分子化学科事務室では、4月に本学科を卒業された川畑尚子助手が応用分子化学科事務室に着任しました。平成23年3月31日付で助手として退職された佐瀬和奈さんが7月5日から8月5日の間、再び臨時職員として採用されました。



JABEE修了証授与式

【トピックス】昨年10月の実施審査結果に基づいて5月10日付の官報で応用分子化学科国際化学技術者コースは日本技術者教育認定基準に適合した2015年度まで有効な教育プログラムとして2005年からの継続が認定されました。これに呼応して7月2日に平成22年度応用分子化学科国際化学技術者コースJABEE修了証授与式本学37号館が行なわれました。また、東日本大震災により延期となっていた学外オリエンテーションは後期授業開始直前の9月12日から13日にかけて行なわれ、日本科学未来館見学など遅ればせながら1年生と教員の親睦を深めることができました。



学外オリエンテーション

学科ニュース

マネジメント工学科

【学生数】学部833名 大学院博士前期課程35名 大学院博士後期課程 1名

【人事】学科主任は若林敬造教授、専攻主任は堀江良典教授が選任されました。

本年度、新任の教員として浅井亮子助教が4月に着任され、キャリアデザイン、モチベーション・マネジメント科目などを担当しております。

【トピックス】○1年生を対象とした平成23年度マネジメント工学科オリエンテーションは、10月8日（土）、マザー牧場にて行いました。当日は午前9時に津田沼校舎に集合し、学科のディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、コース制の説明、教員自己紹介などを行った後、バスにてマザー牧場に向かいました。現地ではジンギスカン料理やレクリエーションなどお互いのコミュニケーションを深め、無事に津田沼校舎に戻ってきました。

○海外出張報告：飯沼守彦准教授 出張先：英国 ハル大学ビジネススクール 出張期間：平成22年3月30日～9月22日 出張制度：平成21年度日本大学中期海外派遣研究員 報告事項：ハル大学は、ロンドンから北へ特急で約2時間半、自然豊かなイーストヨークシャーにある大学です。私はビジネススクールのシステム研究センターに滞在し、同センターの特徴の一つであるソフトシステムアプローチの発想をベースに、主にナレッジマネジメントに関する研究に従事しました。印象に残ったこと：ビジネススクールは留学生が非常に多く、特に中国からの留学生が目立ちました。勉学・研究に対してアグレッシブで、学生のあるべき姿を改めて見た感じがします。

○海外出張報告：吉田典正准教授出張先：米国Brigham Young University 出張期間：2009年8月～2009年8月 出張制度：日本大学生産工学部海外学術交流資金 校友の方への報告事項：大学のある町から北に約70kmのソルトレイクシティは、学祖の山田顕義先生も岩倉使節団として訪れており、どのような思いでこの地を訪れたのだらうと思いを馳せたりもしました。印象に残ったこと：国土の広さ、雄大な自然に改めて驚かされました。



学内オリエンテーション



学外オリエンテーション

数理情報工学科

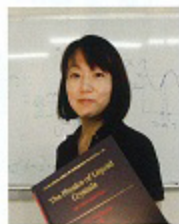
【学生数】学部675名 大学院（修士）36名 大学院（博士）2名

【人事】平成23年度の学科主任は細川利典教授、専攻主任に三井和男教授が任命されました。今年度、新任教員として野々村真規子助教が着任され、自然現象の数値モデルリングと数値シミュレーションに関して学生の教育研究指導に活躍されています。今年度、昇格された教員は、柳窪孝也専任講師が准教授に昇格されました。また、8月に柴田耕一教授が退職されました。永年にわたり数理情報工学科の発展に貢献してくださり、本当にありがとうございました。

【トピックス】〔平成22年度後期〕○10月、古市研究室がデジタルコンテンツエキスポ2010（日本科学未来館で開催）にマルチユーザーミュージックテーブルを展示しました。○10月、大学院（修士）1年の陳賢さんが、国際会議The 10th International Symposium on Communications and Information Technologies（IEEE主催、明治大学アカデミーコンで開催）で、研究成果を発表しました。○11月、古市昌一教授がBSジャパンの番組「世の中進歩堂」に出演しました。○11月、大学院（修士）2年の池ヶ谷辰哉君が「風力エネルギー利用シンポジウム」（科学技術館で開催）で、研究成果を発表し、論文ポスター賞を受賞しました。○11月、大学院（修士）2年の早川鉄平君が、国際会議The 11th Workshop on RTL and High Level Testing（IEEE主催、中国・上海で開催）で研究成果を発表しました。○12～3月、松田聖教授が日本大学海外派遣研究員としてオークランド工科大学（ニュージーランド）にて、Kasabov教授との共同研究に取り組みました。○2月、数理情報工学専攻の講義科目「流体力学特講」が社団法人日本機械学会より公認CAE技能講習会として認定を受けました。〔平成23年度前期〕○5月、4年生の栗飯原萌さん、大竹駿希君、高橋大樹君がNHK-FM（千葉80.7MHz）「まるごとキャンパスナビ」に生出演しました。○6月、ピアサポートシステムを開始しました。4年生または大学院生が1年生の学生生活やプログラミングをはじめとする学習相談を実施しています。○7月、彩の国進学フェア（埼玉スーパーアリーナで開催）に古市研究室がシリアスゲームシステムを出展しました。○7月、数理情報工学科が財団法人画像情報教育振興協会の認定教育校となりました。○7月、千葉県立現代産業科学館にて古市研究室がシリアスゲームのデモンストレーションを実施しました。



柴田耕一教授



野々村真規子助教

環境安全工学科

【学生数】一期生151名、二期生117名に三期生140名が加わり、総勢408名となりました。

【人事】平成23年度学科主任：五十畑弘 新任教授：鶴澤正美（材料化学） 助教：今村幸（熱工学） 吉野悟（安全工学）

【トピック】○夏期に環境安全工学科の一期生が生産実習（インターンシップ）を行いました。今年は震災や節電の影響で実習生の受入企業が少なく、学生全員の实習は困難であると予想されましたが、校友の皆様方のご協力のおかげで希望者全員が生産実習を行うことが出来ました。ここに深く感謝申し上げます。○また本年12月より環境安全工学科の学生が就職活動を行うことになります。本学科の学生は共通分野として、環境と安全、環境とエネルギーと共生に関する理念や方法、国際相互理解、インターナショナルコミュニケーション能力を身につけ、さらに専門性の高い「環境系」「安全系」「エネルギー系」の科目を学んでいますので、将来、業種を問わず企業の環境や安全、エネルギーに関係する部署において「サステイナブルエンジニア」や「ガバナンスエンジニア」としてリーダーシップを発揮することが期待されます。

是非とも環境安全工学科一期生の就職活動へのご支援をお願いいたします。



インターナショナルコミュニケーションにおけるプレゼンテーション

創生デザイン学科

【学生数】三期生138名 在学生数 404名

【人事】3月に日高肇也教授が、退職されました。創生デザイン学科創設にご尽力いただき、ありがとうございました。

【トピック】○川岸典和教授が、(社)日本建築学会主催第13回提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」で優秀賞を受賞されました。○山家哲雄専任講師が、第4回日中韓照明カンファレンスで、最優秀論文発表賞を受賞されました。○第5回 SATOシールデザインコンテスト「日本列島ご当地・名産オリジナルキャラクター募集」で、吉岡滯さんの「ゆず犬（高知県）」が最優秀賞、山崎悠紀子さんの「みかんずきん（愛媛県）」が優秀賞を受賞しました。また、進藤篤君の「シッシ君とサッサちゃん（沖縄県）」、高橋美奈さんの「ただちゃん豆（山形県）」、千田敬貴くんの「馬サイコー（熊本県）」、永井美穂さんの「おやきさん（長野県）」が入選しました。○第75回新制作展（スペースデザイン部門）で、高瀬祐人君の「重圧域」、常住君の「ふたり」、山崎明史君の「きざし」、吉岡滯さんの「Eaten chair」が入選しました。○創生デザイン学科は3年目を迎え、この夏休みに初めて生産実習が行われ、多くの校友のご支援を賜り、終了することができました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げますとともに、来年度の就職活動、ならびに生産実習にご理解をいただき、ご高配を賜りたくお願い申し上げます。



【最優秀賞】東京都 吉岡 滯さん
高知県の柚子と土佐犬をモチーフにした「ゆず犬（ゆずけん）」



【優秀賞】千葉県 山崎悠紀子さん
愛媛県のみかんとタオルをモチーフにした「みかんずきん」

教養・基礎科学系（旧一般教育教室）

かつて、「一般教育」が「教養・基礎科学教育」へと変革への舵をきったところ、「高校生を大学生にする」ということばを耳にしつつ、教養・基礎科学系のカリキュラムが構築された。そこでは、どうしたら自主的な知的探求の道の第一歩をふみ出すことができるか議論がなされた。その重要な契機となるための知的な興味を呼び起こす姿勢が企図されていなければならない。大学での日々を、初めて体験する実習校舎における、さまざまな学びのなかで、新鮮な驚きをおぼえ、専門分野への学びの姿勢へと通じていく動機をみつけることが必要である。だれしも、興味をもつものへは、自然と学びの姿勢を強めていく。おもしろいことには、食べることさえ忘れて没頭するものである。そういう新鮮な動機が内面に芽生えること。そこから、初めて自分の学力がどの面で足りないか、どうしたら知識や技術を我がものにすることができるか。どうしたら、自分の一生の仕事を選び、充実した人生を歩み始めることができるかを考え始めるものである。



野球見学



第20回

桜泉祭

開催日時

11月2日(水)

11月4日(金)

各日9:00～

ペット大集合!ポチたま
でおなじみ



講演会

松本秀樹

11月4日(金)

開演予定 13:00

当日整理券配布有り

詳細はホームページで

「ONE PIECE」EDテーマソング
「Dear friends」



アーティストライブ

TRIPLANE

11月3日(木)

開演予定 15:00

当日整理券配布有り

詳細はホームページで



パレード

11月3日(木)

10:00～13:00

各学科及び四武会(本学部所属武道会)が
神輿を担いで商店街を練り歩きます!

日本大学生産工学部校友会誌「桜生工」

発行: 日本大学生産工学部校友会

住所: 千葉県習志野市泉町1-2-1

TEL: 047-476-1140

FAX: 047-476-3510

HOMEPAGE: <http://www.asahi-net.or.jp/~wa3k-kkt/index.html>

E-MAIL: wa3k-kkt@asahi-net.or.jp

印刷: 株式会社 東工

住所: 東京都北区赤羽北2-2-12

TEL: 03-5963-5702

FAX: 03-5963-5704

編集: 日本大学生産工学部

校友会広報委員会